

邦楽現代

PRO MUSICA NIPPONIA

復刊記念号

第16号 1986年
16 春



特集 ● “杉並邦楽合奏団” ある音楽教師と輝くこどもたちの記録

トピックス 新・新歌舞伎「ヤマトタケル」と日本音楽集団ドッキング

SUPER KABUKI

ヤマトタケル

音楽編

梅原 猛 作

戸部 銀作 監修

奈河 彰輔 監修

市川猿之助 名幸・演出

美術 朝倉 振

照明 吉井 澄雄

音楽 長沢 勝俊

衣裳デザイン 毛利 臣男

制作 松竹株式会社



SIDE A

1. 序 曲
2. 聖 宮(ヒシリノミヤ)
3. 大碓命(オオウスノミコト)
4. 熊襲の国 作詞 梅原猛
5. ヤマトタケル

SIDE B

1. 尾張国造(オウリノクニノミヤツコ)
2. 能煩野(ノボノ)
3. 志貴の里
4. タケルの死
5. 終 曲 一天翔る白鳥

● 30cm LP / C30R0133

¥3,000

● カセット / 28P6532

¥2,800

音楽 長沢勝俊

指揮 田村拓男

演奏 日本音楽集団

場面に衣じた見事な

邦楽器のアンサンブルは、

この革命的な演劇の情趣を

一層深く豊かにする事に成功した。

— 梅原 猛 —

巻頭言

昨年、ハレー彗星ブームに世は沸いた。他愛のない流行といえはそうだが、それで宇宙の偉大、その悠久の搏動の不思議を、少しでも多くの人が感じとるなら、そして自然の脈動からしばし借りた小さなともしびのこのいのちを、争いに費すのでなく、少しでも美しく燃やそうと人が考えるようになるなら、流行も悪くない。

この限りあるいのちを、かなわずと知りながら永遠にしたいと希い、祈ることから人は音楽を生み出した。ひると夜、潮の干満、そして四つの季節。自然はくり返しのようである。そんな宇宙の搏動と、「今」の時は決して二度とかわって来ない。そんな宇宙の搏動と、そして私たちのいのちの形を、音楽はなんと見事にうつしていることか。音楽のよろこびは、音楽を通じて自然の悠久の搏動をいのちの中にふき込まれるように感じるときだ。いや、そんな音楽を私はやりたい。

こんな私の音楽への賛美と希求を述べて、「邦楽現代」再刊のはなむけにしたい。今年、はじめて日本音楽集団のために作品を書く機会を心からたのしみに、いま想を練っているところである。

間宮芳生（まみや・みちお）

目次 Contents

巻頭言 間宮芳生

トビックス

新・新歌舞伎「ヤマトタケル」と日本音楽集団
ドッキング

2

〈座談会〉渡部和郎・小島豊美・西川啓光・田村拓男
特集 杉並邦楽合奏団
ある音楽教師と輝く子どもたちの記録

4

特別寄稿①

「音楽は新しくなければならぬか」 徳丸吉彦

8

美恵子の三味線みてある記①

国立国会図書館コンサート
こどもの城へ三味線教室へ発表会

10

第93回定期演奏会への期待

登場作曲家ヘインタビュ

池辺晋一郎・佐藤敏直・長沢勝俊

12

「樹冠」演奏メンバーの座談会

三橋貴風・吉村七重・宮越圭子・木村玲子

第92回定期演奏会報告

14

ニッポニア・メイツのページ

アコスタディオからのメッセージ 赤星昭生

16

〈日フィル運動の体験で見つけた〉音楽家と聴衆のありかた
はうげん抄

17

日本音楽集団の主な活動記録と今後の予定など

日本音楽集団メンバー表

18

復刊にあたって

バックナンバーのご紹介

22



田村 拓男 氏

田村「物語りが古代のものだから、江戸の三味線音楽では合わない……。シンセサイザーや洋楽器などを入れた音楽も当初考えられたようですが」

きな問題として入場税に関する文化庁の制約がありました。歌舞伎や文楽などの入場税は免税ですが、その条件として出演者は全員が男であり、音楽には洋楽器を使わないということ。例えば二月の入場料収入が五億円だったとすると、五千万円を税金として持って行かれるわけですから大きいのです。

邦楽器を使える作曲家ということ。最終的に長沢さんに決ったわけですね。松竹の場合にはいかに作曲家をうまく助けるかが私の仕事であり、

出来不出来は私の死活問題でもあります。長沢さんは従来の邦楽の旋法を乗り越え、邦楽器を駆使して馴染みのない客にも親しめるすばらしい音楽を書いてくださった。田村「今度の仕事を通じて、日本音楽集団をつぶさに見られたわけですが……」

渡部「もともと日本の楽器はソロ楽器……。それがアンサンブルをするためには、相当な訓練が必要。和楽器そのものの成り立ちが、お家によって癖が違う。その大きな殻を取って一つ一つの楽器の特色を活かし、アンサンブルをしようというのが日本音楽集団でしょう。今回「ヤマトタケル」をやるに当たって、楽譜の初見が利き、限られた時間内に20曲もの音楽を立派に演奏出来る人たちがいると、日本音楽集団においてはお考えられなかった。スタジオで音楽作りをしていて、さすがという感じで、とても楽しかった」

田村「小島さんは今回のレコード化に関して、また日本音楽集団についてのご感想は」



スーパー
(新・新)歌舞伎「ヤマトタケル」
音楽編レコード化完成！

新・新歌舞伎「ヤマトタケル」と日本音楽集団 ドッキング

歌・舞・伎の「歌」に長沢勝俊音楽を求めて天翔ける市川猿之助



3月24日、公演後の打ち上げパーティにて市川猿之助(左)と長沢勝俊

歌舞伎の下座音楽には、三味線主体の江戸音楽と相場が決っているが、今年二月、三月新橋演舞場(五月―名古屋中日劇場・六月―京都南座・十一月―新橋演舞場)特別公演、市川猿之助の新・新歌舞伎「ヤマトタケル」の音楽には長沢勝俊が作曲を担当し、日本音楽集団が演奏するという、かつてない組合せが誕生して各方面から注目を浴びている。またこの音楽はレコード(キャニオン・レコード)になって発売されることになった。今回「ヤマトタケル」に関わった四氏、渡部和郎(SBS音響部長)、小島豊美(キャニオン・レコード)、西川啓光(音楽プロデューサー・堅田啓輝)、田村拓男(日本音楽集団指揮者)に話を聞いて頂いた。

小島「昨日(四月七日)レコードが出来上り、今ハッピーな気持ちです。集団については以前からその活動ぶりや指向性に共感をもち、会社で何度か企画を出したが実現には至らなかった。何年来の恋人に出会った感じ」

レコードは音楽的にも大変完成度の高いものだし、邦楽界がこれだけ注目を浴び、日の目を見たことはないのではない。またそれに充分堪えるものであり、後世に残る内容で上っている。今は、そういう仕事に携わることが出来た喜びと感謝の気持ちで一杯です。

私は集団が演奏したCBSのレコード「ビーターと狼」を聴いて恍惚経験をしました。今回の「ヤマトタケル」



渡部和郎氏

「ケル」もそうだけれど、会社の人に聴かせた時にシンセサイザーが入っているの? と聞かれた。邦楽界も聴かせ方によっては、新鮮な響きで心のひだの中に入ってくるんだなあと思う。一方で喜多郎とかマイアミミュージックといわれるものにも似ている。ビートルズやロックにも通じる。集団のいろんな可能性が22年の活動の重みと共に、今まさにハジけ出ようとしている感じ。そういう意味では「ヤマトタケル」の

音楽は、エポックメイキング的な作品だと思ふ。

日本の伝統的な楽器を使った音楽表現、まさに我々の時代の音楽だということ、多くの人々にどうやって提示していかれるかが大きなテーマです。

田村「いつも堅田(かたど)姓で呼んでいるのに急に西川さんとは呼びにくいのですが」

西川「プロデューサーの仕事の場合には、今後西川姓で行きます。西川姓がどん／＼世に出て行くようにしたい。ともかく「ヤマトタケル」の音楽打合せが昨年の十二月三日、それからというもの音楽総数200曲の作曲をしなければならぬ長沢さんは、暮も正月もない、全く血のにじむ思いだったと思う。

歌舞伎の音楽と言えば黒御簾だけれど、今回のように音楽をテーマに固定するのはかつてないこと。狼之助さんも日本音楽集団の音はレコードでは聞いてはいないもの、大変不安だったことと思う。そこで渡部さんの存在と経験がなかったら出来なかったのではない。我々は「ヤマトタケル」の音楽作りに燃焼し切ったわけだが、それを外から見ている小島さん(キヤニオン・レコード)が「これはいい!」と言ってくれた。何かを感じたのだと思う。集団や長沢さんが22年培ったものが結実して「ヤマトタケル」になり、さらに凝縮したものレコードになった。芝居を見た人たちが邦楽界だけで演奏していることを一様に驚き、洋楽的に



小島豊美氏

聞えたり、リズムやサウンドに新鮮な魅力を感じている。日本音楽集団は22年もやっているのだけれど、まだまだある一部のマニアにしか聴かれていなかったということだ。今度「ヤマトタケル」の公演で、東京、名古屋、京都、また東京で何万人という人たちが新しい音にふれるわけだ。影響は大きい。今までは小さな歯車だったけれど、今回僕らのまわりで大きな歯車がかみ合ってきたような感じがする。アメリカではニューエイジというジャンル分けが出来ている。日本でもおニヤンコの人たちにも聴いて欲しいし、20代、30代の人々が支持してくれる時代になるのではない。

田村「そうですね、日本音楽集団は22年やって来たけれど、我々の知り得る世界でしか動けなかった。ビートルズやフォークやおニヤンコの層とどこかでドッキングしてみたい」

西川「見ていてください。今年暮から来年にかけて新しい動きが出てくる」

小島「今は生活環境の変化で、音の聴かれかたも、ウォークマンを持ち運ばれる。或いは家庭の家事をしながらBG風に聴く、カセットをかけるながら日常の仕事をするといった具合だ。集団の音楽はフレキシブルなものだし、聴くとすんなり入ってくる。今回のこと一つオブラートがとれたのでは……」

渡部「レコードを聴くのを楽しみにしている。レコードには絵づらがなないので、曲がそのまま聴ける。あのテンポで行けば若い人にも受け入れられる」

西川「今度の「ヤマトタケル」の客層が今までと違って若い人が多い。あれはスゴイ。狼之助さんも言っていたが、音楽も新しく、照明も衣裳も装置も歌舞伎の元来のものではない。けれど演出のしかたは歌舞伎なんだ。新劇の人や若い人たちが見た時、斬新に見えるのではない」

田村「今までの歌舞伎は歌(音楽性)、舞(舞踊などの視覚的楽しさ)抜きであり、これからは三拍子揃ったものにしなればという狼之助さんの主張をどう考えますか」

渡部「歌舞伎の音楽は下座音楽で、私に言わせれば音楽ではなく、効果音的扱いである。下座の処方と音楽的処方をうまく使って音響的に表現できないかということが今までの自分の課題だった」

西川「歌・舞、つまり音と動きが密接なつながりをもっている。音楽の



西川啓光氏

テンポ如何によつては語れないこともある。三拍子揃った総合的なものでなければならぬ」

小島「歌舞伎も従来のものと、かなり通っている者ですら何を言っているのかわからない。(イヤホンがイッドがあったりする)。ところが狼之助さんのものなら誰が見てもわかる。歌舞伎の世界でも変革を起そうとしている。それを今の時代は違和感なくのみ込むようになって来ている」

田村「最も伝統的な相撲界でも小錦や高見山が活躍し、外人の尺八奏者も出る時代……ひとり歌舞伎界、邦楽界のみが伝統を守るのだと言っているだけでは取り残されてしまう。当該者自ら現代の人たちに向って、手を差し伸べるべきでしょう」

西川「時代の流れが変わって来ている。昔だったらこんな歌舞伎は考えられない。今は受け入れられる時代になった」

田村「時代の流れを把握・分析している人が必要。その上で何と何をドッキングさせればよいのか……日本音楽集団も、もっとうるんな人に聴いて貰う努力をし、どんなことも受け入れられる団体にならなければ……」

日本音楽集団は22年前に新しい日本音楽の創造をめざして誕生したわけだけれど、もう一方の伝統的な歌舞伎の世界で、大胆に、大規模に変革を試みる男の存在を身近に知り、勇気を得た感じ。

今後いろいろ道案内をお願いします」



かねてより「日本の音を子供たちに」と情熱を抱いていた小学校の一教師が、体当りの実践のもとに子供たちの邦楽合奏団を育成、5年目の成果を世に問う発表会が注目を浴びた（3月26日、芝abcホール）。何の疑念もなく当然のことのように箏や三味線を手にする子供たちの瞳は輝き、稽古を通しての人間教師、温情師匠との触れ合いは併せて礼儀作法も自然の内に身につくことになったという。

杉並邦楽合奏団

ある音楽教師と 輝くこどもたちの記録



長唄「越後獅子」や 現代邦楽も……。

「お弟子が増えない」「楽器が売れない」と危機感を抱きながらも腕を拱くのみ邦楽界……。『いじめ』や『非行』の対処に頭をかかえる教育界への回答がここにひそんでいるかも知れないと思わせる発表会だった。杉並第三小学校の四・五・六年生卒業後も続いている中学・高校生たちによる杉並邦楽合奏団発表会（助演・日本音楽集団・長唄東音会・芸大邦楽科有志）。わらべ唄・民謡・長唄「越後獅子」「勸進帳」「小鍛冶」や現代邦楽からも日本音楽集団の代表的なレパートリーである「組曲・人形風土記」の「ニポポ」や「子供のための組曲」第一章などを演奏と演奏する子供たちのステージからは



37歳の手習い、 箏を教室に持込む。

「日本伝統音楽の明日」への夢を抱かせるものがある。指導者、茅原芳男・田島佳子両氏らの話を伺った。茅原芳男（ちはら・よしお）先生（57歳）は「多数の子供による邦楽器の合奏は、邦楽及び邦楽器を普及するための有力な方法として、また音楽教育の重要な一分野として、かねてより継続的に取り組みたいと熱望していた」のである。

「だろ」と感じたことがある。「それでも時折耳にはしていたが、特に気をひかれることはなかったはずなのに……」。それから思い切った箏をならべてみようと思い始めたのです。「箏などの日本の楽器を学校の授業にいかしたらどうなるのかなあと考えたのです」「それ以降というものは「音楽とは何ぞや」「音楽教育とは何なのだ？」「私は一体何者なのだ？」と考え続けることになるのです」「尺八もありません。数少ない邦楽の文獻も探し求めて読みあさりました」「私の人生の前半は普通の先生、後半は変り者というわけです」。

箏を習い始めて三年後の昭和四四年にはいよいよ箏が教室（前任校の新宿区立落合第二小学校）に持ち込まれ、子供たちと箏との感動的な出会いがあったり、楽器の絶対数が足りないのて楽器店にかけ合ってついに20面の箏を確保するなど、茅原先生の子供邦楽合奏団構想実現へと進んで行くのである。

杉並第三小へ転勤。110名の 邦楽合奏教室誕生。

昭和五六年四月に転任することになった杉並区立杉並第三小学校は茅原先生の構想実現には打ってつけの条件を備えていた。

第一に杉並区では以前より課外教育活動が教育委員会の後援を受けて行われていたことである。この活動は「杉並区小学校音楽教室」と称し、区内各小学校の有志音楽教師が自校で有志児童を集めて土曜日午後、合唱・合奏を指導するもので、他の区市等ではほとんど行われていない特異な活動であった。

第二に杉並第三小にはほとんど使用されていない二教室に相当する広さの特別教室があったこと。その上カーペット敷きで机も備品も置いてなく、冷暖房までが完備しており、練習には最高の場であったこと。

第三に学校側や同僚の先生方が協力的であったこと。

第四に短冊20面は以前より引続いで確保されていたこと。

かくして昭和五六年の六月には箏を主体とした「邦楽合奏教室」がめでたく開室式を迎えたのである。

何人の児童が参加したのですか。茅原「最初の年が四・五・六年で47名、うち他校からも2名ありました。二年目には110名位が申込みました。ほとんどの児童がやめなくて続いています」。

特集
邦楽器はいま

楽しそうでした」

邦楽や邦楽器というものに対して子供たちは何か特別な感じ方をしていたのか、それでしょうか。

茅原「洋楽とか邦楽の区別は特に感じていないようですよ」「友だちが大勢いるからとか、姉さんがやっているからとかの理由で参加した子供もいます」「もちろん学校で初めて体験する子供たちばかりでした」

先生の本「日本の音を子供たちに」(紀元社)の中にも書かれています。初歩の練習曲には平調子とか陰旋律などの古典曲は使わないのですね。

茅原「もっとやさしい曲から始めなければ」と思い、数ある「わらべ唄」の中から二音の旋律(例えばテンツン)テンツンテンツンのように二本の糸だけで弾く。続いて三音の旋律、四音の旋律などへと発展させれば良いと考えました。それでもなかなかうまくいかず、「みんなてやればこわくない……」という状況もしばしば……」しかし子供たちはとても

三味線に悪戦苦闘「異様な音・雑音」芸大講師が無償でコーチに……

楽器店から7挺の三味線を寄贈されるという幸運……けれども三味線の指導には悪戦苦闘されたとのことですね。

茅原「三味線に関しては全く未知の世界でした。無謀の一語につきる三味線への取り組み」「希望者を募ってみただけで、体当り。以外に名案は浮かびません。独習書を反復熟読し、無我夢中で格闘はしたものの、結果は全く惨憺たるものでした」「7挺の調絃に一時間近くを費やし、予定した練習時間の約半分を浪費している。それでも気を取り直して全員で音を出してみる」「異様な音であり、雑音ですらある」「無性に悲しかった」そこでまた幸運を呼び込まれ芸大講師の田島佳子先生との出会いに

なる訳ですね。

茅原「夏休みになってから知人にこれまでの経過を話し、妙案について相談「よい人を紹介しよう」と言われ、早速その人に面会。「東京芸術大学田島佳子」の名刺をいただき我が目を疑いました」「お弟子さんでも差し向けてくださるのかと思っていたのですが、本人が直接指導してくださる由、斯界の権威が一介の小学校教師に力を貸してくださるとは……」しかも無償で……」感無量でした」

田島「瞳が輝いていた」「何とかしてあげたい」「物事は最初が肝心」

田島先生はご自身演奏活動や芸大などでの指導がお忙しい方なのに、自らが子供たちに手ほどきしようと決心されたお気持ちとはどんなものだったのでしょうか。

田島「お話があつてからともかく練習を聴かせて頂いたので、確かに三味線は上手くはなかったのだけど、何せ楽しそうに練習しているし、瞳が輝いていました。これは何とかしてあげたいと思い、私が買ってきたのです。それに私は元来子供が好きですし……」

大学生と違って最も手のかかると思われる小学生たちの手ほどきは大変ではなかったのですか。
田島「そんなに大変だとは思わなかったのです」「最初に思ったことは、どういうやり方をすれば子供たちが飽きないでついて来れるかなという



楽室にて、田先生と父兄・集団メンバーたち

田島「子供たちはしょっちゅう怒られています」「シビレたら足をくずしてもよいが、最初から横座りして三味線をつないだりしていると怒鳴るんです」「15分か20分位するとシビレるのでちょっと休けますが、うしろに向いて足を伸ばさせる」「決して楽器の前などにのばさせない」

父兄の物心両面に亘る援助が……。挨拶や靴のぬぎ方がよくなった。友だちと一緒にやれるのが嬉しい。

こととした「あとは自分も子供たちと一緒に楽しく演奏しました」「何でもそうでしょうが物事は最初が肝心と言いますので……」つづきから毎年初歩の子供は必ず私が教え、二・三年たった子供たちは芸大の助手にも教えさせます」「芸大の入試で、才能もあり教え方によつては伸びてゆきそうなお受験生を見聞につけ、なぜ初歩の段階でもっと基本的なことをしつかり教えてなかったのかと残念に思うことがしばしばあります」

子供たちを飽きさせない練習とというのは実際にはどんな方法をとられましたか。

田島「童謡の場合など例えば一緒に歌わせながらとか、何小節ずつかを一列交代、あるいは一人で二小節ずつやらせるとかして神経を集中させるのです」

子供たちは正座するのが「イヤ」だと言いませんか。

合奏団員父兄の物心両面に亘る積極的支援もあった。第一回発表会での跳び箱、平均台、卓球台などを使った特設舞台作りへの協力や「楽器不足の訴へ」には他家から借用して来たり、資金を集めて10数面の箏を備えた。また二日目は「杉並邦楽合奏団父兄の会」を結成してあらゆる活動に裏方として活動。早朝練習(演奏会や依頼演奏会を控えて毎朝7時30分から約一時間練習)では当番が二名づつ交代で登校し、廊下、教室の換気に配慮したり、何かと世話役にまわった。外部での演奏では、楽器の運搬や子供たちの輸送もすべて父兄の会が担当。また会費も集められ、楽器の修理費や諸経費に充当することができた。

お母さんがたは、子供たちが学校で邦楽をやるんだと初めて聞いた時驚ろかれましたか。
母親A「びっくりしました」「私は二



茅原芳男先生

味線が好きでしたし、学校で教えて頂けるなんて願ってもないことなので、大賛成でした。「上の娘には争を、下の娘には三味線を習わせました」

「田島先生が教えてくださるようになってからは、三味線の子供たちが見違えるようにぐんぐんよくなりました」「礼儀作法を教えてくださいました」ともとても良い。稽古の始めと終りの挨拶や靴のぬぎ方もよくなった。

お母さんのすすめで合奏団に入ったのですか。(リハーサルを客席で聴いていたお母さんに)

母親曰「自分からすすんで入りました」

練習はどんな風にやっていますか。母親曰「自宅でやるというのではなく、早朝練習や土曜午後の練習で、友だちと一緒にやるのが嬉しいようです」「現在の子供の生活の中では、一つの目標に全員で向かうことがほとんどなく、それぞれの子が習いごと、塾などで別々に忙しい」「学校の中でも一丸となって進む協調の意識がもてるものが少ないのではないかしら」

杉並の地域には娘の頃に等や三味線を習っていたお年寄りが多いという環境もあって、茅原先生が育かれた種が見事に実りつつあると云える。

NHK TV「音楽の広場」に出演。ヨーロッパへも……

定期発表会のはかに外部からも演奏依頼を受けるようになり、練習にも一段と熱が入る。杉並区三曲協会

定期演奏会や田島先生主宰の和佳寿会演奏会に出演したことにより、初めて三曲界・長唄界の専門家の生演奏を目のあたりにできた。

NHK TV「音楽の広場」に出演することが決った時にはどんなに嬉しかったことだろう。子供たちや先生、父兄の方々の喜びの光景が目に見えてきた。

TVでの放映は、ヨーロッパ公演の話へと発展して行く。TVを見た



田島佳子先生

現代っ子に受け入れられる曲を……。子供のための合奏曲が欲しい。

今まで選曲や編曲はどのようにされてきたのですか。

茅原「多くの人々に愛唱・愛好されている曲、現代っ子にも受け入れられるであろう曲を選定の基準とし、可能な限り多様な分野から選曲するよう心掛けています」「当然われわれの編成に合った既成曲はないので私

日本航空から「ウィーンの日本文化フェスティバルへ出演しないか」との問合せが来た。

各地（ウィーン・ブダペスト・インスブルック）での公演は、熱狂的支持を受け、アンコールの連続に立往生する場面が続出した。初めて味わう満足感、幸福感。見るもの聞くものが新しい世界の見学を通して、子供たちも同行した親たちも疲勞感以上に成熟感にひたるのであった。

今後、合奏団の運営はどのようにされる予定ですか。

茅原「子供たちの中には、卒業しても続けたいという子が何人もいます」「芸大をめざす子も出始めている」「私も可能ならば何年でも続けたいと思っている。いろいろ経緯があったが思いきって今年で退職し、邦楽屋になる決意」区の公認する社会教育団体として、あらたな施設で再出発する。「そして今年七月、インスブルックで開催される国際音楽教育会議での演奏に向けて頑張りたい」

それを理解し、従来の方向を是正しようとする人は極めて少ない。一介の教員にできることは、体当たり。以外の何ものでもないように思われてならない。今こそ邦楽界は一丸となり、音楽教育界に望ましい方向へ進むように働きかけてほしいと熱望するのである。

最後に

今回の演奏会にあたって日本音楽集団との初めての練習があった日、十七歳とやがて目を輝かせながら見入っていた好奇心旺盛な子供たち……。いかようにも夢をふくらませる可能性のある大事な時期に我々大人は子供たちをいたずらに受験地獄に追いつけていたのではなからうか。茅原先生や田島先生が身をもって実践されたように、思いやりのある人間的で文化的な環境作りを、大人の責任において随所で盛んにしなければと思う。合唱や器楽合奏などが学校で指導されるのはごく当り前のことになっているが、邦楽器合奏を学校に持ちこんだ例はあまりなく、茅原教諭の存在が、また田島先生の温かい手の差し伸べがなかったら出来なかったことかも知れない。

二人の邦楽界への熱い思いをこめた実践報告の波紋は大きい。

卒業しても続けたい子が……。茅原「今年、退職して邦楽屋に……」

茅原「邦楽の普及は音楽教育界に課せられた重大な使命である。しかし、

インタビュー：野口美恵子

文：田村 拓男



一、変化好きと変化嫌い

日本の音楽で新しい試みをきくと、いつもなにか「いけない」ことに立ち会ったような気がしたものです。たとえば箏と尺八の合奏ならば当然のこととして、なんの問題を感じないのに、それが箏とフルートだと、単に違和感を感じるだけでなく、なにかいけないものをきいたような気がしてしまうのでした。宮城道雄や久本玄智の作品で、こうした新しい傾向をもったものをきくと、正直に言えば、いつでも、違和感が強くなって、とても楽しむどころではありませんでした。その一方、西洋音楽の場合はどんな変わった試みでも、たとえばどんな組み合わせで楽器がでてきても、違和感を感じるところか、むしろ新しい試みとして歓迎する傾向が自分のなかにはありました。おなじ音楽なのに、どこからこの違いが出てきたのかを考えてみると、それは、日本音楽は変化しなくて、西洋音楽は変化するものと信じていたからだとおもいます。そして、このように私が思い込んでいた背景には、変化に対する態度について、西洋音楽と日本音楽では、それに従事していた音楽家の間でも違いがあったことがあります。

ご存じのとおり、西洋の音楽の世界では、アルス・ノーヴァとかムジカ・ノーヴァなどといって、じぶんたちの芸術や音楽に「新しい」という形容詞を付けた例がよく見出されます。こういう性格の世界では、新しさは長所どころあれ、短所ではあ

りません。ルネサンスでも現代でも、若い世代は、たとえ前代と実質的にはおなじことをしていても（すくなくとも、おなじようにみえても）、「新しい、新しい」といって、新しさを誇張する傾向があります。ですから、有名な音楽家に習った若手にむかって、「師匠顔負け」というのは失礼になりませんが、「師匠そっくり」は侮辱になります。しかし、これと反対に、日本のように、自分たちの芸術を昔からの継承だといはる傾向が強い場合は、「師匠そっくり」どころか、「先代の芸にそっくり」という評価でも怒らせることにはなりません。

このような子供のころの反応も、あとになって日本音楽史をならべ、実際には、日本音楽のなかにも激しい様式の変化があったことを知るようになると、様々な試みも新しい様式がうまれていく段階なのではないかと考えるようになり、しだいに忍耐と寛容をもつようになりました。そして、あまり違いがないようにみえるものでも、伝承者にとっては、大きな違いがあると意識されていることがよくあることにも気が付くようになりました。

たとえば、文楽にいき始めたころは、それぞれの場を開始するタクリにしても、風（ふう）のちがいはおろか、細かい特徴もわからないまま、共通する特徴ばかりが目立ってきこえてきたものです。数年まえのことですが、このあいだ亡くなられた一中節の宇治俊文師匠のまえて「腹機

音楽は新しくなければならないか

帯」のでだしをひいていて、はんのちよつと勘所の移動にスリが入ってしまったら、「清元のまねを一中節でするんじゃない」としかられました。この場合は、旋律の基本的な動きはまったく同じですから、様式的な違いは、スル・スラないの区別と、二つの様式の響きにもとめられます。こうした違いも変化のある証拠なのですが、知らない、まったく変化がないものと誤解するところでした。二、音楽のなかのどの面に注目するか

変化が多い、少ないと言っても、音楽のどのような面をさしているかによって、答えは違ってきます。三味線の音色に鈍感なひとが聞いたら、三味線音楽はみな同じと言うかも知れません。とくに西洋音楽の影響を受けたひと、音楽のなかの様々な面のうちでも音組織や音程の配列に敏感になっていますので、こうした面での変化が目立たない音楽様式に

対しては、単に変化のないものと考ええる傾向があります。今になって、一九二〇年代から一九三〇年代に活発になった新日本音楽とよばれる運動とその成果を振り返って眺めてみると、この運動に関わったひとびとが注目したのも、西洋音楽（といっても、せいぜい一八・一九世紀の都市の音楽にすぎませんが）で重要な役割をもっていた面であることがわかります。

最近になって私は新日本音楽を考え直してみ、その特徴を次の九つの点にまとめてみました（平野健次・徳丸吉彦「日本伝統の音とは」、勝部貞良・井上勲 編集 江戸の幕末、現代のエスプリ 別冊、至文堂、昭和六一、一四九—一六八頁）。ここで簡単に繰り返してみます。

(ア) 音高を離散量として考える。
(イ) 音高の質を均一化する。
(ウ) パターンの使用を避ける。
(エ) 音域（とくに低い方）を拡大する。

(オ) 音量を増大する。
(カ) 新しい組み合わせの合奏を行う。

(キ) 協奏曲、練習曲、変奏曲などの西洋の形式を借りる。

(ク) 機能相声法の導入を試みる。

(ケ) 作品が楽譜（特に五線譜）に固定できると考える。（同書一六五頁）

このなかで、最初の三点は音高や音組織について、もっと目立つ変化を与えるものでした。つぎの音域と音量での試みは、やはり、細かいニ

ュアンスよりははつきりとした変化をねらったものです。のこりの点も目立つ変化と結び付いています。三、変化しないようにみえるのは悪いことか

こうした目的からみると、江戸時代の三味線や浄の音楽は新日本音楽の反対の極にあることになりました。たとえば、三味線組歌を考えてみてください。三味線の音は勘所によってそれぞれ響きが異なりますから、音高の質は決して一定していません。また、一つの曲ばかりか、沢山の曲に共通するパターンがあります。音量のばらばら大きくはありませんが、しかし、このなかには、三味線や声の音色という面や楽譜には固定できない細部の変化があります。こうした音楽ではテンポの変化がなくつまらない、と言う音楽家もいます。しかし、テンポの変化をわざと加えないというのも、音楽家にとっては、重要な解釈のほずです。

新日本音楽は決して過去のものではありません。現代の日本の聞きかたのなかにまだまだ影響をのこしています。この影響は新日本音楽に対しては意味がありますが、ほかの音楽、とくに、日本の伝統音楽に対しては、注意深く聞かなければならない面をおおいかくす役割も果たしているように見えます。変化しないように見える音楽や、変化が足りないように見える音楽に對しても、おなじように耳を敏感にすることが、これから更に必要とされることだと思います。

三味線の恵子美



野口 美恵子

国会図書館の文化祭にゲスト出演

一月二十二日、国立国会図書館の文化祭に招かれた。日本音楽集団が招かれるのは、二昨年の半田淳子（琵琶）、昨年の笛、打楽器、尺八、箏につづいて、今回が三度目である。今年、七人編成に指揮の田村を加えた八名であった。

職員による長唄、謡曲、バリトン、合唱の演奏につづくゲスト出演である。ホールを工事中のため、閲覧室での演奏になり、そのオーブンスペースを生かし、パフォーマンス形式で応えた。打楽器の屋台ではじまり、二十絃の芽生え、尺八の鹿の遠音は、

客席の後ろから二人の奏者が登場し、客席はびくびくしたようす。続いて琵琶の那須の与一、長唄囃子の獅子、三木稔作曲の秋のファンタジー、長沢勝俊作曲の冬の一日を演奏。

オーブンスペースのためか、演奏する前からじっと食い入るように見守る視線を感じ、いつもと一味違う緊張感が漂う。演奏者と聴くがわの引きあう力が、相互に力をぶつけあって実に充実した内容の演奏会になった。奏者と客席が、お互いに不思議な力に引かれあって醸し出す雰囲気だったと思う。

「こどもの城」三味線教室

春分すぎて、思いがけない大雪にみまわれた三月二十三日の日曜日、青山の「こどもの城」では、楽しい子供のイベントがあった。

厚生省の後援でつくられたこの「こどもの城」は、昨年十一月にオープン、十二月に開講され、スイミング、新体操、球技、エアロビクスを含む体育講座や、パソコン、工作をあつかうブレイク講座、オーディオ・ビジュアル講座、造形講座などと共に、音楽では、ガムラン、シンセサイザー、合唱、リトミック、そして三味線の講座がある。

この日は、音楽部Bスタジオで、芸大講師田島佳子先生の指導をうけた三味線講座の小、中学生十三名が、芸大邦楽科、お囃子に在学中の学生の応援をうけ、演奏を披露した。

お江戸日本橋にはじまり、長唄の小鍛冶、連獅子、通りやんせ、多摩川を演奏、間に司会者が三味線の構造やルーツを説明したのも、分かりやすかった。その後、小学一年生から中学生までのお囃子の教室の生徒といっしょに、まつりを演奏。外はしだいに大雪となり、交通もマヒしはじめたので、二回の演奏予定が一回になった。しかし、大勢の子供たちがそろって三味線を演奏する光景は、現在ほとんど見うけられない状態、その勇姿と熱意を目のあたりにし、しばし感動させられた。

杉並邦楽合奏団の指導もしている田島先生（本誌特集参照）は、芸大

講師のかたわら、子供たちの指導に自ら情熱を注ぎ、将来あるべき邦楽界の道標を示しているのではないかと改めて感じた。

四月十三日（日）、こどもの城の教室をお訪ねした。明るく広い教室。

新年度の第一回目のレッスン日である。私は新入生のレッスンが終わった所へうかがい、昨年に引きつづいて受講する十三名のレッスンを見学。机に三味線をのせ、「よろしくお願いします」と唱和し、くばられた楽譜をちよつと見て、先生の合図のもと、三味線をもつてすぐ弾き出す。数小節すつくり返し、できた目とじてすぐ暗譜していく。ニコニコ笑つてのやりとりや、「よく耳で音をとりなさい。集中して！」とビリッときめ、一時間もたたぬうちに暗譜できている。その間、田島先生は一度も三味線をもたず、お話しながら手拍子で進め、効率的良い、手慣れた指導に、時を忘れて見入ってしまった。

子供たちの中には、いずれ芸大に入りたいという希望をもった子もいる。今年の四月からは、筆の教室も開講され、子供たちが自分の国の音楽に触れる場が少しずつ出てきたこと、これは邦楽界の将来にとって、また一つの新しい道が開けたといえるのではないだろうか。裾野を広く、そして専門的な勉強もできるように、このような動きが、周囲の温かい声援を得られることを、強く切望する。



●こどもの城にて。
演奏する教室の子供たち。

創業・昭和8年

お琴・三味線の琴栄

●東海一の実績を誇る店



◇1階・店 舗

- ◇三味線、尺八、舞踊、多数陳列
- ◇お琴、三味線、尺八の付属品、楽譜 多数取揃えてあります

◇2階・お琴展示場(ミニ舞台付)

- ◇お琴、紅目琴、20絃琴、17絃琴と豊富に取揃えてあります
- ◇ミニ舞台でお琴を弾いて下さい

〈お買い求め〉 フレッシュ販売をご利用下さいませ。(最高3000円)

〈パンフレット〉 無料送付致します。



御琴・三味線専門
琴 栄 楽 器 店

代表・増田康壽

〒500 岐阜市司町九 (大学病院前)
TEL. (0562) 81826 代



竜勝堂

手造り

琴・三味線 専門

附属品・琴糸・三絃皮張・貸琴

倉持楽器店

営業時間 午前9:30～午後6:30

日曜休日 土曜9:00迄

●先生をご紹介致します。

電話 (店) 0473-45-5807
0471-63-3864

クリ甲など、ならないお琴もなるように修理出来ます。

祝「邦楽現代」復刊

和楽器専門店

老舗

KK金善楽器店

京都市東山区大和太路通り四條下ル二丁目亀田町五七

TEL

(075)

五六一一二九四〇 五四一一〇九三
五二五一一三七五 (夜間)

露秋銘 尺八

西 田 露 秋

〒794 今治市新谷新田甲798

電話 0898-48-1097・1257

登場作曲家に聞く

池辺氏に聞く

今回はいよいよ日本音楽集団の大編成の曲を書いてくださるといので、みんなで大いに期待しています。大変売れっ子作曲家で忙しいと思うのですが……

池辺「この二ヶ月の間に初演曲を8

曲（オケ2、室内楽2、合唱曲3、

ニューオーケラでステージ初演1）作りました。この他にラジオドラマが

毎週3本、今年になって芝居が5本、

四月には芝居が2本同じ日にオーブ

ン、教育映画が1本、東京混声合唱

団の定演用アンコールピースとピアノ

小曲が今日（8日）出来上がったとこ

ろです。日本音楽集団の「天点譜」

池辺晋一郎

「天点譜」（委嘱・初演）

佐藤敏直

「青のモチーフによるコンポジション」（再演）

長沢勝俊

「樹冠」「大津絵幻想」

（一九八四年委嘱作品）



池辺晋一郎氏



佐藤敏直氏



長沢勝俊氏

と札幌新音楽集団「群」の「議論譜」

を並行して作曲中「五月七日にはN

HKから委嘱されている「イタリッ

賞」（東フィル 40分）の録音「五

・六月にテレビ朝日の録音「自分で

指揮をする合唱曲も作曲中」この他

作曲家協議会の副会長、文化庁の著

作権審議委員も勤めているので会議

に出席「四月からは大学（東京音大）

も始まるので出なければ……」

ところで「天点譜」のほうは……

池辺「決してサボっているのではあ

りません。がんばっています」オー

ケストラの場合は機能体として考え

ることができ、邦楽器の大編成

は今までなかなか書けなかった

「異質なものがその特質を押さえ、そ

れらの集合によって何かができない

かなと思っています」

佐藤氏に聞く

一九六九年初演の「デイヴエル
テイメント」と一昨年初演の「青の
モチーフ……」では顕著な作風の変
化が見られるのですが。

佐藤「デイヴエルテイメントの頃は
まだ邦楽器への経験が浅くて思ひき
った書き方ができなかった、という
こともあるのですが、それよりこの
十五年間に私の作曲スタイル自身が
変化したため、という理由の方が大
きいでしょう。月並に言えば、あの
デイヴエルテイメントの音ではどう
しても自分の世界が表わせなくなっ
たということです」

「青のモチーフ……」の作曲者の
ことばに「青」について哲学的な文章
が書いてありますが、もつとかみく
だいて言えば……再演に当って集
団や演奏家へのぞみたいことは……

佐藤「私は小さい頃から絵を画いた
り、モチーフをモザイク風に捻げる
模様をいたすたりするのが好きで
したが、そんなとき造形の美は構
成要素の個々の集積の美だと思っ
たことがよくありました。この「青の
モチーフ……」も、モダンな音型
を一つの単位にして集積されたもの
で、これと、そこに起る色彩感との
交わりをねらったもの、といえるで
しょう。ですから演奏に際しても、こ
の「モチーフ」の役割をどういう位
置づけにするのが、肝心なところ
となるように思います」

長沢氏に聞く

「樹冠」が集団の定演に登場する
のは初めてですが……

長沢「一九七九年「四つの個による
楽」の委嘱により作曲し、同年四月
十二日に初演されました」

曲のねらいと、今回の演奏に期
待するものは。

長沢「尺八・1、二十絃・2、十
七絃・1、という四重奏ですが、前
半は四つの個性がカデンツァ風なフ
レーズを奏しながら、だんだんとア
ンサンブルを形成し、次第に高揚し
ていく形をとっています。四つの個
が、あるときは個性のある歌をうた
い、また火花を散らすような激しい
かけ合いをまじえながら、緊密なア
ンサンブルによる高度な音楽的表現
を与えてくれることを期待しています。

「大津絵幻想」の東京での演奏は
久しぶりでですね。

長沢「はい。昨年十一月にはレコー
ドにもなり、全国各地では数多く演
奏して来ましたが、東京での演奏は
初演以来五年ぶりです。

この曲の特長と、今回のねらい
について。

長沢「『人形風土記』や『二つの舞曲』
等にもみられる、民衆のいのちの讃歌
という私の創作命題の延長線上にあ
るものです。最近では集団のレパート
リーとして定着し、演奏者も充分弾
きこなしていますから、きっと内容のこ
い演奏を聴いて頂けることと思います」

樹冠

を語る演奏メンバーたち

「今回の定期演奏会での『樹冠』の初登場に期待しています。まず今回の演奏メンバーは尺八・三橋貴風、二十絃・吉村七重、木村玲子、十七絃・宮越圭子の四人ですが、その内三橋、吉村、宮越の三人は委嘱初演



三橋貴風

のメンバーですね。その辺からお話をさせていただきましょうか。三橋 そうですね、この曲は一九七九年の四月に四つの個による『楽』というグループの委嘱で演奏されました。我々が長沢勝俊氏に作曲を委



吉村七重



木村玲子



宮越圭子

嘱した時にお願ひしました事は、一人一人の個性を生かしつつ、自由なアンサンブルが楽しめる様な曲、というむずかしい注文でした。そして二十絃二面と十七絃、尺八という編成で書いていただきました。

宮越 その二十絃二面という事で、今まで樹冠を演奏したくてもできないという方々もおられました。私が『楽』をぬけたあとお入りになった福永千恵子さんは、この曲を演奏する為に二十絃に挑戦なさいました。

し、何年か前の正派の桐観会の際には、宇野文恵さんが初めて二十絃に挑戦なさいましたよ。

吉村 そうでした。地方の演奏家の方や音楽集団の若い人の中でもこの曲で、二十絃になじんだ方はけっこういらつしやいますね。それと言うのも是非この曲を自分で弾いてみたい。と思わせる様な魅力のあるメロディーを持った曲だからでしょう。長沢先生の作品の中では珍らしくこの曲は十五分切れ目なしの曲であり、前半はそれぞれの個性を充分に発揮し後半で流麗なアンサンブルを奏しめるようになっていきます。全体にわたって自由に揺れ動く事を奏しめるのが、私は大好きですが……。木村 親しみ易い可愛いメロディーと、少し哀愁を帯びた美しい部分と、律動的な合奏と色々変化に富んでいるし、弾いていてとても楽しめます。三橋 僕はこの曲からは日本的というより、むしろ汎アジア的なものを感じられます。特に後半部分などでそう思います。そしてテンポの変化というのが重要なポイントになっていると思います。余談ですが、四つの個による『楽』は『樹冠』の演奏によって一九八一年に大阪文化賞を受賞しています。

吉村 そういえば面白い事を思い出しましたが、樹冠のレコーディングを入間市民会館でやったんですが、あれは確か九月中頃でした。我々がカッコよくアップチュエルランドして最後の和音を弾き終わって余韻が残っている……するとそこでコオロギがコロコロコロ……。何回やってもコオロギの参加があり、しかもコオロギと一緒に終わる事が出来ずに余ってしまったのです。アレにはまいりましたね。録音を中止してスタッフ共々会場でコオロギをさがしたりもししましたが、もしかしてよくレコードを聞くとコオロギの音色も聞こえるかも知れませんよ。

三橋 ホント、あれはおかしかったね。

宮越 ところで、今度『樹冠』のたて譜が出るという話を聞きましたが、御存知ですか？

木村 ああ、そういえば二十絃二面の処を第三面にアレンジし直して、五重奏という形で大日本家庭音楽会の出版部から出すそうです。争になれば生徒達にも弾けますから、今から待っている人もいますよ。

吉村 でも私としては、どんなに二十絃にも挑戦して欲しいと思います。いずれにせよ多くの人が演奏して楽しめるのはいいですね。それに自分達で委嘱した曲が多く演奏されるのはとてもうれしい。

宮越 本当にそうですね。委嘱したかいがあるというもののね。この四人の顔ぶれで『樹冠』を演奏するのは二回目ですけど、また練習が楽しみです。

三橋 頑張ってよいステージにしましょう。

今日はどうもありがとうございました。ではステージを楽しみにしております。

テーマ

を持つことの意味と反響

担当代表

米澤 浩
竹井 誠

「楽器の改良は創造の飛躍を助け、大胆な新素材開発は普及を促す」と謳った第92回定期演奏会は、約三ヶ月かけ担当団員らによって企画が練られた。当初は改良及び創造にテーマが絞られていた訳ではなかったが、整理の段階で、我々演奏家が素通りに出来ないこと・現在までの過程と進行しつつある姿を広く認識する必要があること・各々の楽器の評価を演奏者の主観的判断だけでなく客観的判断も仰ぐことができないかという三点に議論が集中し今回のテーマに絞り込まれた。

造られ改良されてきた過程に縁の深いもの、もしくは特長をとらえやすいことを基準とした。

取り上げる楽器はジャンルも広く後述の楽器店等に協力をお願いした。特に福山市の牧本楽器店には、無理をお願いし、本来子供を対象とした普及用に考案された四尺箏を演奏でも紹介させて頂いた。又富山のワダ楽器には本番の一週間前まで木管尺八の試作をお願いするなど、こちらの無理難題に快く応えて下さった楽器店の皆様に今さらながら深く感謝し御礼を申し上げたい。

実現に当っては聴衆の方に対し、司会者及びプログラムを通じて出来る限りの情報を供給し、聴衆の方からはアンケートの方法でその評価を寄せて頂く方法を探った。その配布するプログラムも今後資料として使用出来るように充実させ、吉川英史氏の「十七絃の誕生をめぐって」、山川直春氏の「オーケラロの話」又、当団員によって「箏の絃について」(宮田耕八朗)・「新しい楽器の開発」(中島隆)他を掲載し、当日配布する倍の数を印刷し今後の需要に備えた。(限定250部・1部500円、事務局まで)

今回のもう一つの目玉として当日演奏する楽器をロビーに展示した。これには楽器店の協力を得たことはもちろんであるが、特にNHKの楽器班より本来門外不出である「オーケラロ」を展示用に貸与して頂けたことが幸いであった。そして各々のコーナーに楽器店の方はもちろん集団の団員を配して観客の方々が楽器を手に取り説明を受けられるように準備した。以下にアンケートの結果及び演奏会後寄せられた意見を紹介し報告とする。

「一般に名曲の名演奏だけでは説得力が弱く何か良いテーマ・企画性の高い演奏会に魅力が感じられるようです」(吉川英史氏)

「私共和楽器業界の一員として今回の定演の企画に大変興味を持ち参加させて頂き感謝致します。観客と出演者が改良楽器等を通じ、触れ合う場として開放された当日のロビーの雰囲気を感じ、益々新製品・改良楽器の開発が我々の務めであると思いました。しかしやはり今後への課題として、日本の楽器を日本人がもっともっと理解し手に取り奏でたいと思う様な気持ちになる音楽、それはテクニクだけでなく大オーケストラ的使用により個人的にはやさしい奏法でも全体的には高度な音楽となり集団外の人々にも合奏され得る様な音楽を提供することが必要と思われまふ。特に団員諸氏の自己満足より聴く人々の喜びを中心に音楽構成を考え底辺の堀りおこしを常に考えて現代邦楽をリードすることが、日本音楽集団の発展につながり又、我々和楽器業界にも大きな一時代を築くものと思いつつ……」(明鏡楽器代表 渡辺 譲氏)

「……(前略)先日の演奏会はなかなか良い企画だったと敬服しました。

「……(前略)先日の演奏会はなかなか良い企画だったと敬服しました。



会場ロビーで楽器を見る人々

第92回定期演奏会 プログラム

- 一、四季の彩り
日本音楽集団構成
宮城道雄 作曲
- 二、落葉の踊
清瀬保二 作曲
- 三、尺八三重奏曲
三木 悠 作曲
- 四、竜田の曲
長沢勝俊 作曲
- 五、子供のための組曲

わずかな時間に要点を答えてもらうため、五つの設問にそれぞれ選択文をつけて、その後文章で答える方法をとった。

一、今夜の演奏曲目について

- 観しやす (66.7%)
- なじみにくい (7.7%)
- 興味深い (71.8%)
- 安易である (0%)
- おもしろい (66.7%)
- つまらない (0%)

寄せられた意見 (抜粋)

- 司会の説明に合わせて舞台が運動し、改良点や長所短所を手短かに実演してくれるとおもしろい。
- 曲間に解説があると解かり易く非常に良い。
- 伝統的なものと新しいものがうまくまざって大変よい。
- 各演奏会ごとに今回のようなテーマがあると面白い。

二、演奏について

- ソロがもっと聴きたい (20.5%)
- 大合奏がもっと聴きたい (48.7%)
- 4〜5人編成がもっと聴きたい (23.1%)

色々な形態の演奏を多彩なメンバーで企画していくことの研究が必要なようである。

ここで「楽器の素材の研究」ということについての設問に移る。

三、プログラムはテーマの理解に役立ちますか。

- はい (76.9%)
- いいえ (5.1%)

四、コンサートの構成は?

- おもしろい (74.3%)
- つまらない (2.5%)

プログラムは、それだけで独立した読物としても楽しめるようにしたいというねらいが何とか成功したようである。構成の方も「一」の意見にもあったように解説に重点を置くことによって主旨の理解につながった。

五、楽器の展示について

- おもしろい (80.2%)
- つまらない (10.25%)

- はつきりと不満の意見があったので紹介してみると
- もっと積極的に説明したり資料を配ったり試演をしたりしてほしい。
- 歴史的な見地からの研究を
- 改良楽器についてのパネルディスプレイのスペースを
- そして最後に、

「今、楽器の素材の研究ということにどのような感想をもっているか」の設問。

今回の演奏会にとって最も重要な質問なので、寄せられた意見の主なものを全てを紹介したいと思う。

●安価になって手軽に親しめるよう

になってほしい。

- 構造そのものの研究と並行して改良した方がよい。
- 従来の素材にとらわれることなく今回の試みを見て満足した。
- 実質的に幅広く利用したいと思っているので (素材の研究に) 大賛成である。
- 素材研究はよいが、集団の定期でやるべきではない。
- だいたいどの楽器にも音の迫力が欠けているように思う。
- 将来の天然素材の供給を考えれば、(素材の研究が) 必要だろうが今は魅力を感じない。
- 争に関しては、素材の研究よりも形状の研究 (十七・二十・短) の方が多く、短争の発想はコンパクトにいうだけであって、音の追求の研究も聞きたかった。
- 三絃は合奏でないと聞こえてこない。独奏には素材としてまだ研究すべきことがある。管楽器は音量に問題が残ると思う。

以上

協力団体名 (順不同)

- 協力 NHK制作業務局庶務部楽器班・株式会社白峰・三枝商店
- 楽器等提供 ワタ楽器株式会社・琴光堂和楽器店・牧本楽器株式会社・和楽器専門の店明鏡楽器

MATE



アコスタディオからのメッセージ

日フィル運動の体験で見つけた「音楽家と聴衆のありかた」
市民によるフィルハーモニー運動の発祥の地にアコスタディオ建つ

——メイツ顧問——

赤星昭生（元日本フィルビオラ主席奏者）
アコスタディオ オーナー

皆さん、もう、原宿の「アコスタディオ」にお出掛け下さいましたでしょうか。日本音楽集団には、一昨年の九月に「アコスタディオ」を開設した時から、ずっと積極的に御利用いただき、スタディオの特性を生かして下さって居る事到大変感謝して居ります。今回、毎月一回程度のサロンコンサート、ニッポニア・メイツの主催、日本音楽集団側のプロデュースで定期的に開催していた事になりました。

私事になって其だ恐縮ですが、私も、そも、このミニコンサートホールを始めしたのは、日本フィルの解散と存在の問題です。私は、創立からのメンバーとして参加し、殆んどライフワークといってもよい位の仕事を日本フィルでして来ました。それだけに、一九七二年の日本フィルの解散は、私にとって非常に深刻な問題で、解散に導いた者に対する怒りと共に、聴衆の皆さんの支持に依りて、自分たちでオーケストラを守る活動を積極的に開始しました。日本フィル解散の意味の重大さと、日本フィルが日本の音楽界に果たして来た役割、そして演奏に対する評価の高まりの中で解散は、甚だシヨッキングな事件として、未だかつてなかった位にマスコミでも取り上げられ、運動も大変盛り上りました。特にこの時期に「日本フィルを存続させる会」の活動はめざましいもので、その

果たした役割の大ききの割には、一般にはあまり記憶されて居ないかも知れません。存続させる会のメンバーの殆んどが、日本フィルの定期会員や東急ビールデンコンサート（文化放送の日本フィル定時番組）のお客様で、日本フィルを存続させる為の活動として何回もの「ガンバレ日本フィル」コンサートが開かれ、その会場が渋谷公会堂であったこともあり、原宿の我があばら家は、存続させる会のたまり場になり外まであふれる位の方々が集まってケンケンガク／＼熱気のある討論と活動がくり返され、それは大変なエネルギーでした。不幸にして分裂解散となり存続させる会の活動は停止しましたがその後も我が家で日本フィルの事務局活動がなされ、それが、今日の日本フィルの市民オーケストラ運動の基礎になったと思つて居ます。少しオーバーに云わせてもらふなら、市民によるフィルハーモニー運動の発祥地であるといふ負致して居ります。

この運動の中で私達がみつけた「音楽家と聴衆のありかた」が「非常に大切な我々の宝である」と実感するようになりました。それで、この様な想いも込めて「アコスタディオ」の開設に踏み切った次第です。

日本フィル協会の活動の中で知りあった、国会図書館におつとめの工藤秀也さんの御紹介で、「アコスタディオ」のオープンに、日本音楽集団もお祝いにかけつけて下さり、坂田誠山さんと吉村七重さんがお祝いの演奏をプレゼントして下さいましたところから、音楽集団とのお付き合いが始まりました。そして、市民オーケストラ運動は、日本フィルだけのものではない事を知りました。集団の皆さんも、自分達の活動として、演奏だけでなく聴衆の皆様方との交流に積極的であり、サービス精神も旺盛で素晴らしい演奏家集団だと思っています。

演奏とはコミュニケーションであり、これが演奏で一番大切な事であると私は思つて居ります。そこで「ニッポニア・メイツ」の発足を期に、集団にも日フィル並の条件でスタディオを御利用いたゞく事に踏み切りました。今回の連続企画で、これに依りていたゞいて、大変嬉しく思つて居ります。

「アコスタディオ」は、何せ私共の住居を建てかえた小さな空間です。音の宇宙的拡がりには程遠いものですが、こゝからの運動は、世界に拡がってほしいと、夢は大きく持ちたいものと思つて居ります。スタディオ内部は全面木で内装しましたので、デリケートで柔かな、木肌の自然な音をお楽しみいただけます。皆様は邦楽器の持つデリケートさを、身近な空間で十分に味わつていたゞけたら幸甚です。

一九八六年四月

ぼんげん抄

黒髪復活

のどかな田園をうきうき走り出すと、裏切り者のクリボーがやって来る。こいつは踏みつけるか飛び越せば良いのだが、油断してあたら未来ある命を落とさないように注意したい。ひとつ目の土管の手前にはスーパースペースがくさされたブロックがあるから必ずとおこらう。4本目の土管から地下にもぐればそこはボーン・スズンで、コインが19枚。地上へ出た時にはもう第一のゴール間近だ。地下にもぐらずそのまま行くと、その先の山にかかった所で一回ジャンプ。不思議ブロックにかくされたこのキノコは仲間をひとり増やしてくれる。崖を飛び越えたら花を採る。これでスーパーマリオからファイアマリオに変身、ファイヤボールを投げられる力がついた。第二の崖を越えて山を過ぎるあたりのブロックには星がかくされている。この星に触ればもう無敵。Bボタンで加速して、敵を蹴散らし突進だ。但しその時間は短かい。崖から落ちるような不注意さえ仕出かされなければこのエリ

日本音楽集団1986年 初頭の主な活動記録

1月5日(日)
ヤマハ新春コンサートに出演
日本楽器銀座店

1月19日(日)
船橋市主催により日本音楽集団演奏会
船橋市民文化ホール

1月22日(水)
国立国会図書館文化祭に出演
2月7日(金)

第92回定期演奏会
芝 a b c 会館ホール

2月16日(日)
小山市主催により日本音楽集団演奏会
小山市文化センター

2月21日(金)
旭丘高校鑑賞会
小田原市民会館

3月8日(土)
NHK邦楽百番に出演(大津絵幻想、
北の詩、萌春)

3月16日(日)
千葉県茂原市で日本音楽集団演奏会
3月26日(水)
杉並邦楽合奏団演奏会に出演
a b c 会館ホール

4月28日(月)
大宮開成高校鑑賞会
大宮市民会館

5月9日(金)
第93回定期演奏会
朝日生命ホール

日本音楽集団及び団員等の今後の予定

5月10日(土)
中学生対象のヤング・ビープルス・コ
ンサート
虎の門ホール

5月11日(日)
現代日本音楽フェスティバル'86に出演
名古屋芸術創造センター

6月2日(月)・7日(土)
高松市中学校巡回学校公演
6月5日(木)
松江市プラバホール柿落しに日本音楽
集団演奏会

6月6日(金)
松江市総合文化センター

6月9日(月)・6月12日(木)
米子市公会堂
米子市公会堂
長崎県巡回学校公演

6月26日(木)
第94回定期演奏会
芝 a b c 会館ホール

7月10日(木)
芝祐靖「笛の会」に出演
イイノホール

7月11日(木)
日本現代音楽協会演奏家シリーズ
三橋貴風・吉村七重・ジョイントリサイタル
芝 a b c 会館ホール

7月14日(月)
宮田耕八朗尺八リサイタル
朝日生命ホール

7月16日(水)・8月16日(土)
田嶋直土国内ソロリサイタル旅行
(大阪・福井・新潟・鎌倉・遠野・釧路)

8月6日(水)・8月11日(日)
劇団エルム「ベツカンコ鬼」に高橋明
邦出演
青山円形劇場

8月31日(日)
いわき市制20周年記念行事に出演
8月31日(日)・9月3日(水)
三橋貴風・吉村七重・ジョイントリサイタル
那覇市ステーションホール(31日)
平良市中央公民館(3日)

9月17日(水)
上越市中学校鑑賞会
上越文化会館

9月18日(木)
第95回定期演奏会
芝 a b c 会館ホール

9月20日(土)
田嶋直土第6回尺八リサイタル
梅若能楽堂

9月24日(水)・9月27日(土)
鳥取県巡回学校公演
9月26日(金)・10月4日(土)
一九八六年度日本音楽集団地方公演
(中国地方) 9月26日米子・27日鳥取
・29日出雲・30日益田・10月1日日原
・2日下関・3日岡山・4日津山)

9月26日(金)
田嶋直土尺八リサイタル
大阪朝日生命ホール

10月6日(月)
第12回関西定期演奏会
大阪郵便貯金会館ホール

10月8日(水)
日本音楽集団名古屋公演
名古屋芸術創造センター

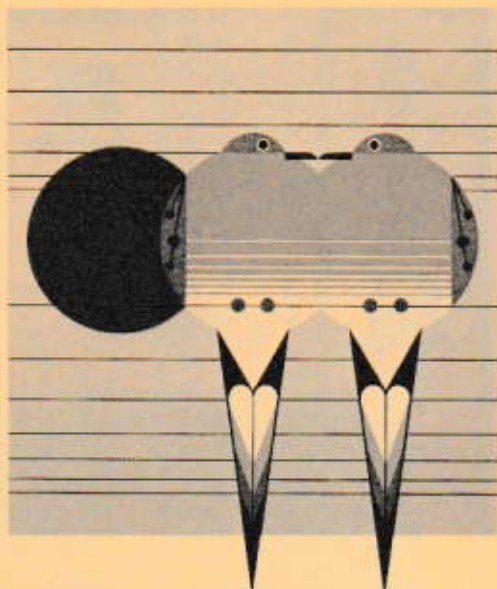
10月22日(水)
三橋貴風尺八リサイタル
芝 a b c 会館ホール

11月12日(水)
第76回定期演奏会
都市センターホール

アは簡単にクリアできる。そして
ゴールのボールでは500点を目指す
う。階段の頂上で左いっばいに寄
り(B)ボタンを押す。右ヘダッシュ
して(A)ボタンを押せばなしにす
ると、どうだボールのつべんに
つかまった。ゴールタイムの一の
桁が1・3・6の時その数だけ花
火があがる。階段上からタイム0
の時に(B)ダッシュをかけるのがコ
ツ。(スーパーマリオブラザーズ)
の最初の面の攻略方法)

ピーチ姫を助け出し平和なキノ
コ王国を築くため、艱難辛苦を乗
り越えてマリオは行く。
日本音楽を生き返らせ平和な音
楽世界を築くため、艱難辛苦を乗
り越えてニッポニアは行く。
無敵のマリオにはならずとも、
スーパーマリオには変身して期待
に応えたい。「邦楽現代」はマリ
オが投げるファイヤボールだ。敵を
倒すためじゃなく、道を拓く道具
としたい。
ということでは本物の黒髪は一向
に復活しないけれど、復讐なつた
「邦楽現代」ともこのコーナー
をよろしくと、まじめにこあいさ
つ申し上げます。(黒髪 望)

追伸 スーパーマリオの最終面まで行
った人、お名前をお寄せ下さい。
次号でその栄誉を称えます。



医療費用保険

リリーフ

新発売

健康は、ご家族の大きな財産。
だから備えが必要です。

※ 損害保険の安田火災はあなたの暮らしを
ワイドに補償致します。

※ あなたの保険設計は明和損害保険企画に
おまかせ下さい。

日本音楽集団指定損害保険代理店

明和損害保険企画

R M小笠原 明男 オフィス ☎937-0547

安田火災海上保険(株)板橋支社 ☎962-7311

◇カセット好評発売中◇

〈No.1〉

飛騨によせる三つのバラード・まゆだま
のうた・六連星・合奏曲千鳥

〈No.2〉

二つの田園詩・秋によせる三つの幻想曲
三重奏曲・箏のしらべ

MME Tapes 発売元/大日本家庭音楽会

A Collection of K. Nagasawa's Compositions

長沢勝俊作品集

▶ 尺八譜 ◀

飛騨によせる三つのバラード	400円
まゆだまのうた	300円
秋によせる三つの幻想曲	400円
六連星	300円
二つの田園詩	300円

(有) 家庭音楽会出版部

〒810 福岡市中央区大名1-3-41
☎(092)741-2458 振替口座福岡8-5500

◇待望の〈長沢作品〉を楽譜化◇

No1	飛騨によせる三つのバラード (箏3・17絃・尺八)	800円
No2	まゆだまのうた (箏・尺八)	400円
No3	合奏曲 六段 (箏3・17絃)	600円
No4	春三組 (箏・三絃)	600円
No5	秋によせる三つの幻想曲 (箏2・17絃・尺八)	600円
No6	箏のしらべ (箏2・17絃)	500円
No7	合奏曲 千鳥 (箏3・17絃)	500円
No8	六連星 (箏・尺八)	400円
No9	三重奏曲 (箏2・17絃)	600円
No10	二つの田園詩 (箏2・17絃・尺八)	500円
No11	箏協奏曲 (箏3・17絃・独奏箏)	700円

琴 三味線

紅 屋

所沢市泉町1864-3
0429-25-3935 28-1082(夜)

琴・三絃一式

株式会社 琴の長澤

京都・中京区四条旧御前通り上ル
TEL 〇七五・八二一・一三四五

風 (かざごころも) 衣

写真武田信玄 風の如し

現代に脈うつ「孫子」の真髄を実行して戦国の世に燃えつきた信玄
初の映像とその風姿を同行す。
(B4版変型・上製カラー百二十頁・山梨日日新聞社刊)

箏曲のふるさと(作曲地)を初めてカラー映像でとらえた豪華写真集。
箏伝来の英彦山から八ッ橋検校の足跡のほか七十四曲を収める。
北海道から九州、海外まで三年余の取材、序文/吉川英史・林忠彦
(A3判変型二百十頁・信濃毎日新聞社刊)

撮影/田中 廣
定価/9,800円

撮影/田中 廣
定価/3万円

申込先 〒394 岡谷市加茂町1-3-11
田 中 廣 (著者サイン入)
〜「邦楽現代」復刊記念1割引・送料無料〜

こころにひびく

創業明治32年



伝統の音色

厳選された材質と伝統の技術に基く、瑞々しい音色
都内希少の製造者として、廉価にも努めております

琴	角 卷	7.5万円～	12万円
	半 角	15万円～	23万円
	上 角	25万円～	33万円
	金 口	35万円～	45万円
	割 甲	45万円～	350万円
三絃	十七絃	24万円～	100万円
	二十絃	37万円～	100万円
	二十一絃	56万円～	100万円
象牙	花林棹	7万円～	14万円
	紫旦棹	16万円～	28万円
	紅木棹	30万円～	300万円
	琴 柱	18万円～	60万円
	津山撥	38万円～	60万円

左記定価より一割引

御予算に応じてサービス品・御注文種々承ります



和楽器製造販売 落合邦楽 981・7664
豊島区池袋本町4-25-16

古典から現代そして……

音の世界に飛翔する

誠和銘尺八

手頃な普及管から高級品まで
(普及管1尺8寸管に限り定価50,000円より)

(有) 誠和音芸

〒156 東京都世田谷区桜3-18-18
電話 03-420-0483

箏



オリジナル立奏台

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に
音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL (792)8481

復刊にあたって

前音楽監督の三木稔や霜島素子らが中心になって編集し、日本音楽集団の機関誌として発行されていた「邦楽現代」は一九八三年五月の第15号を最後に休刊していましたが、このほど装いを新たに復刊することになりました。

演奏活動のみでなく、誌上を通じて意見や情報の交換をし、さらに多くの方がたと交流を深めて行くことが出来るならばすばらしいことだと思っています。

ペンを持つことは、演奏家にとっては容易なことではありませんが、我々の目や耳を通して音楽や社会の問題を考え、文章で参加する努力もしたいと思っています。どうぞ各界、各層の大勢の皆様方の温かいご協力を頂いて、機関誌「邦楽現代」を立派なものに育てたいと念願しています。

長沢勝俊
田村拓男

邦楽現代バックナンバーのご案内

- 創刊号・一九七六年春・日本音楽集団創立十周年記念座談会
 第二号・一九七六年秋・日本音楽集団創立十周年記念座談会その二・そして今
 第三号・一九七七年春・邦楽の危機は去ったが「社会と邦楽」伝統的な声の音楽をどう考える？
 第四号・一九七七年秋・邦楽器の録音と再生
 第五号・一九七八年春・特別座談会演奏の東西―その接点を探る
 第六号・一九七八年秋・日本音楽集団創立十五周年・定期コンサート五十回
 第七号・一九七九年春・音楽之友社賞受賞
 第八号・一九七九年秋・二十絃箏制作十周年
 第九号・一九八〇年春・特別座談会 外から見た日本音楽、日本の情緒・家元制度・わらべ歌 オペラへあだゝ初演日誌

- 第十号・一九八〇年秋・現代邦楽のレコード
 第十一号・一九八一年春・現代邦楽合奏団の実態を探る
 第十二号・一九八一年秋・現代邦楽合奏団の実態を探る②
 新連載 ジャーナリストイックアイ
 第十三号・一九八二年春・（急の曲）（三木稔作曲）世界初演
 第十四号・一九八二年秋・特別座談会 今日から明日へ―不況の中の現代邦楽運動
 第十五号・一九八三年春・日中に懸ける音楽の橋 座談会 日本音楽集団第十次海外公演を果して

編集後記

「邦楽現代」復刊決定と同時に、楽器をペンに持ち替えた演奏家がインタビューをしたり、写真撮ったり、辞書を片手に原稿書きに汗だく……さしずめ手作りの味がお届けできたら……といったところです。さらに楽しく、有意義な機関誌になるよう編集部一同がんばるつもりです。

編集部

邦楽現代 Pro Musica Nipponica 第16号

定価 五〇〇円

一九八六年五月九日発行
 発行所 日本音楽集団

東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
 〒150 電話 〇三―二七八―四七四一

発行責任者 田村拓男
 印刷所 光蔵社

●今回本誌に広告を掲載して下さった方々(五十音順)
 落合邦楽・柳家家庭音楽金出版部・秋金音楽器店・柳
 キヤニオン・レコード・琴光堂和楽器店・琴栄楽器店
 ・柳琴の長沢・柳田中楽器・柳誠和音楽・西田露秋
 ・紅星・明和損害保険企画・電勝堂・株ワタ楽器